

第220号

まちのくすりやさん

今回のおはなし



「子宮頸がん予防」



子宮頸がん予防

今年度16歳（高校1年生相当）で、公費（原則自己負担なし）で接種を希望する方は、11月中に初回接種できるよう、医師にご相談下さい。

2025年度の公費助成（原則自己負担なし）対象者は、今年度12歳から16歳になる方です。

※2009年4月2日～2014年4月1日生まれ

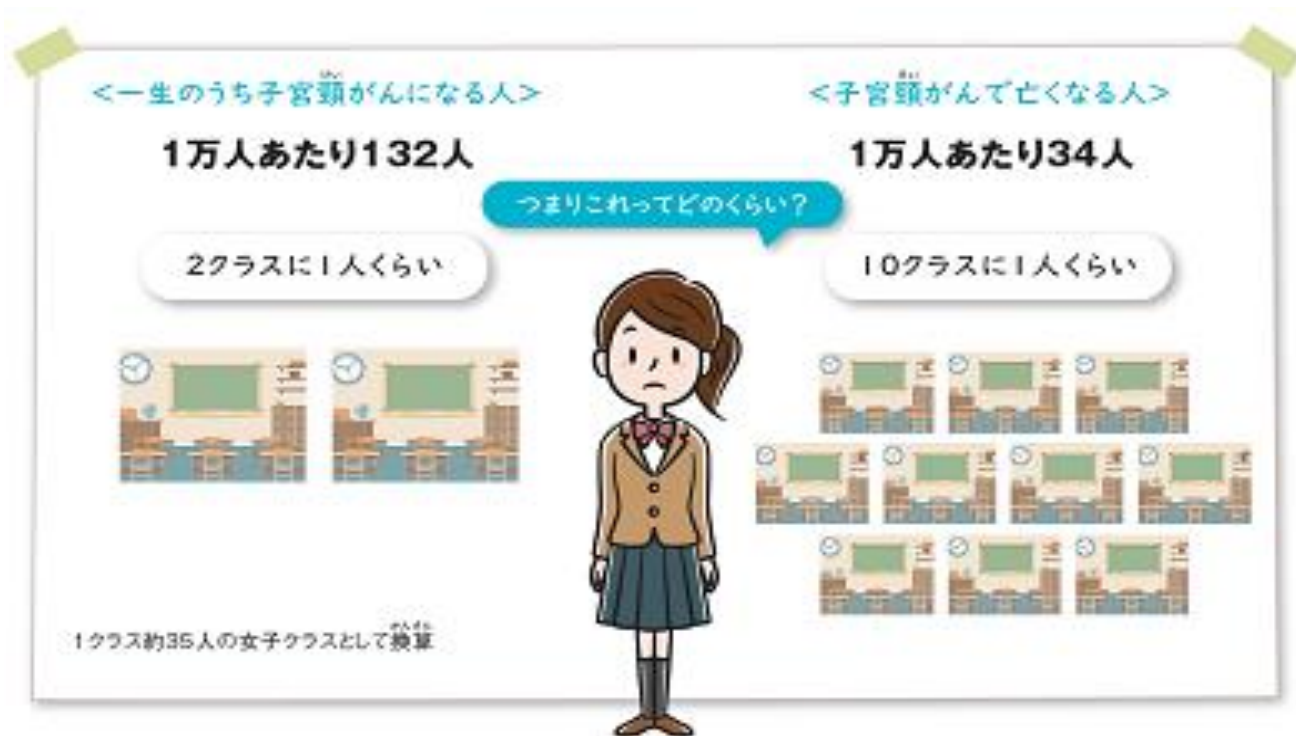
標準的な接種時期は中学校1年生です。

★子宮頸がんってどんな病気？

「子宮頸がん」とは、女性の子宮頸部にできるがんのことです。子宮は、胎児を育てる器官で、全体に西洋梨のような形をしています。また、子宮頸部は、膣へと細長く突き出た子宮の入り口部分（膣の方から見た場合には、奥の突き当たり部分になります。）のことを言います。

子宮頸がんは、若い世代の女性のがんの中で多くを占めるがんです。

日本では毎年、約1.1万人の女性がかかる病気で、さらに毎年、約2,900人の女性が亡くなっています。患者さんは20歳代から増え始めて、30歳代までにがんの治療で子宮を失ってしまう（妊娠できなくなってしまう）人も、毎年約1,000人います。



HPV ワクチンは、小学校 6 年生から高校 1 年生の女子を対象に平成 25 年度から開始した定期の予防接種です。千葉県では、各市町村において定期接種対象者は接種を無料で受けることができます。

また、キャッチアップ接種は 2025 年 3 月 31 日で終了しましたが、今年度 17 歳～28 歳になる方（1997 年 4 月 2 日～2009 年 4 月 1 日生まれ）でキャッチアップ接種期間中（2022 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日）に 1 回以上接種している方は、2026 年 3 月 31 日まで公費で残りの接種を完了できるよう経過措置が設けられています。

（※公費助成を受けられる期間を過ぎても、自費での HPV ワクチン接種は可能です。）

HPV ワクチンの接種は予防接種法に基づいて実施されており、国内外の研究結果から、ワクチン接種による子宮頸がんの予防効果などのメリットが、副反応などのデメリットよりも大きいことを確認して、皆さまに接種をお勧めしています。

しかしながら、接種は強制ではなく、あくまでご本人の意思に基づき接種を受けていただくものです。接種を望まない方に接種を強制することはありません。また、接種対象者やその保護者の同意なく、接種が行われることはありません。

実際に予防接種を受ける際は、ワクチンの有効性とリスクを十分に理解した上で、受けるかどうかご判断ください。

なお、令和 5 年 4 月 1 日から、現在、定期接種の対象となっているサーバリックス（2 価 HPV ワクチン）、ガーダシル（4 価 HPV ワクチン）に加えて、シルガード（9 価 HPV ワクチン）が定期接種の対象となりました。

（一社）浦安市薬剤師会

〒279-0004 浦安市猫実 1-2-5 健康センター内

Tel 047-355-6812（月～金：10～15 時）

Fax 047-355-6810

メールアドレス yaku_ura_t@urayaku.jp

ホームページ <https://www.urayaku.jp/>